

# 巡る、物語。

物が巡る、人が巡る。

私たちの生活は物的環境—建物、設備、緑、光、風等—と、人的環境—家族、近所等のコミュニティ—を基盤とする。これらが空間的、時間的に「巡る」ことで、物的、人的に持続可能な都市空間や共同体が形成され、ここを舞台に多様な個人の関わり合いが展開される。



## ◆ これまでの物語

### 木密住宅と清掃工場の活用

敷地東側には木密住宅が多く、木質アパートなどが多く見られる。一方で、近年の再開発や建て替えが進んでおり、空き家らしき建物も見かけられることから、住宅の解体による廃棄物が生み出されている。これらを廃棄物として処理するのではなく、この地区に集約することで「廃棄物—ごみ」を「資材」として近場で再利用できる。

豊島清掃工場は、池袋駅とこの地区の間に立地しているため、目の上のたんこぶのような存在である。清掃工場は NIMBY 施設のひとつともいわれる。ごみは一般的にはマイナスイメージだが、しかし、この地区では利用できるプラスなもの。清掃工場の敷地と接している引き込み線を利用してごみ資材を融通することで、連携を深めている。

### 新旧住民の交流

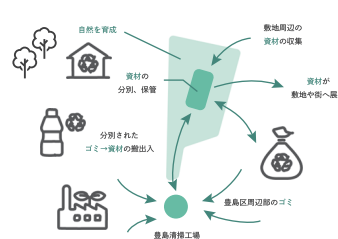
対象敷地周辺が含まれる豊島区都市づくりビジョンでは、「新旧住民の交流」が課題としてあげられ、「多世代が出会いふれあうまち」が目標として掲げられている。周辺は、①単身者向けの集合住宅、②築年数の高い戸建て住宅、③④が開発され、敷地分割された戸建て住宅または敷地が集約された集合住宅、の3つのタイプの住宅が主流である。

①や③は、ターミナル駅である池袋駅に近く、若い単身者や外国人居住者の需要が高いためであり、その結果新規住民は流入し続けている。しかし、単身者は、結婚で家族が増えると、より広い郊外へ移り住むことが多く、地域との関係性は希薄であることが多い。一方で、②の住民は、地域に根付き独自のコミュニティを形成している。これらの世代どうしが、互いに出会いふれあうことが望まれる。

## ◆ 新しい物語—物が巡る、人が巡る。

### “物”が巡る—自然環境の持続性

- ・ゴミを資材として認識し、敷地内や周辺地域に循環
- ・自然環境—光、熱、風—が循環する環境負荷の小さい建物
- ・物の循環や持続可能な利用の最先端を研究・学習・実践する場
- ・森や池、畑で資源を自分たちで生産



### “人”が巡る—コミュニティの持続性

- ・多様な人口集団が外へ流出することなく、街の中で循環
- ・家族構成に合わせて、住み替えがしやすい多様な住戸タイプ
- ・昔からの地域住民と新住民の交流—昔と今の町の文脈の混合
- ・コミュニティの持続性



## ◆ 地区計画のプラン —MEGURU TOWN

### 物の循環

車両の元引き込み線を通じて清掃工場から、敷地周辺の住民の持ち込みにより、ごみは MEGURU の分別スペースに運ばれる。分別された「元ごみ」は「資源」として次のように使われる。

「くるくるショップ」で販売／「くるくるレンタル」で地域住民に貸し出し／ MEGURU OFFICE でごみを利用した新商品・新素材の研究・開発／開発商品は MEGURU SHOP で販売・展示／集合住宅の住民自身が居室を設計・施工など。

### 人の循環

市街地に接する東側ではパブリック性が高く、ショップやオープンスペースが位置する。中心の MEGURU には「循環」について学ぶ人が集まったり、地域住民の交流の場となる。西側へ行くくと次第にプライベート性が高まり、集合住宅住民らが共用する作業場や、中庭などの交流の場がある。







MEGURU SHARE-の作業場 WORKS や OFFICEに面した中庭。東西方向をつなげる。

車両基地の大空間を活用し、南北方向に地区を連続的につなげる。さまざまな「巡る」機能が集中する核となる。



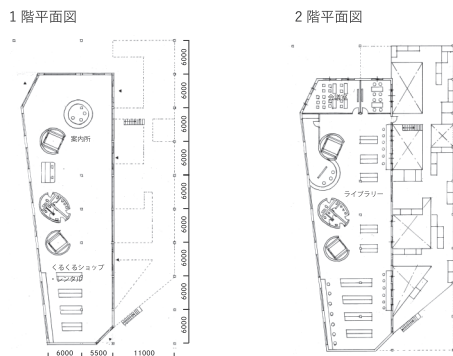
地区全体のボリューム模型。



## ◆ MEGURU SHARE- WORKS, OFFICE, HOUSE

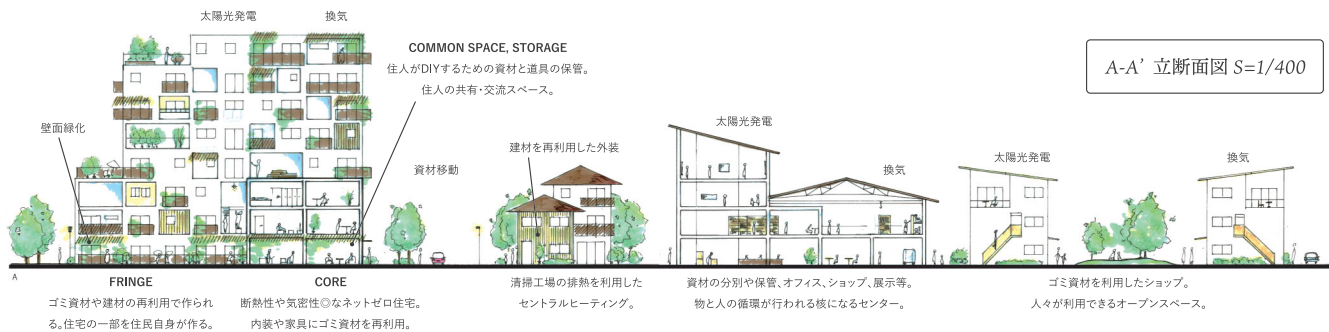


## ◆ MEGURU CENTER



## ◆ 計画諸元

<b>■ MEGURU CENTER</b> 延べ面積: 3184㎡ 建物高さ: 15m	<b>■ 集合住宅(AとBを合わせて)</b> 延べ面積: 22640㎡ 住戸面積: 25~70㎡ 建物高さ: 25m 戸数: 300	<b>■ MEGURU SHOP</b> 延べ面積: 1740㎡ 住戸面積: 696㎡ 建物高さ: 10m 戸数: 18
<b>■ MEGURU SHARE-</b> 延べ面積: 8753㎡ 住戸面積: 3501㎡ 建物高さ: 15m 戸数: 50	<b>■ HOTEL</b> 延べ面積: 1500㎡ 建物高さ: 10m 戸数: 16	



**FRINGE**  
 ゴミ資材や建材の再利用で作られる。住宅の一部を住民自身が作る。

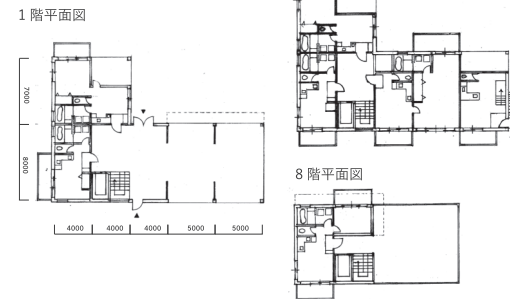
**CORE**  
 断熱性や気密性◎なネットゼロ住宅。内装や家具にゴミ資材を再利用。

清掃工場の排熱を利用したセントラルヒーティング。

資材の分別や保管、オフィス、ショップ、展示等。物と人の循環が行われる核になるセンター。

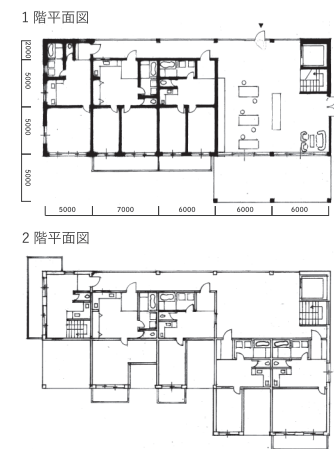
ゴミ資材を利用したショップ。人々が利用できるオープンスペース。

## ◆ 集合住宅 TYPE A



集合住宅 TYPE A。居室の一部は住民自身が DIY で施行するため、多様性に富んだファサードとなる。

## ◆ 集合住宅 TYPE B

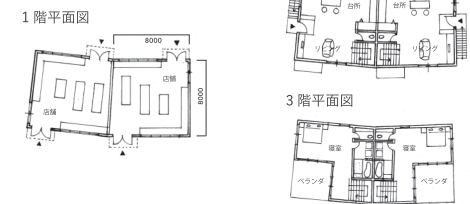


集合住宅の間には、住民が作業・資材保管できる共有部が面した、緑豊かなオープンスペースが取られる。

店舗併用住宅である MEGURU SHOP。生活の場がとなりわいの場になり、周辺住民や外部との関わりも深い。



## ◆ MEGURU SHOP



## ◆ 自然環境に配慮した 建築システム

A-A' 立面断面図 S=1/400

ネットゼロに配慮したインフラ設備を整えた CORE 部分と、資材を積極的に再利用する FRINGE 部分を組み合わせることで、資源の循環と環境負荷を軽減する。

清掃工場の排熱を活かしたヒーティング/高層化による風の通り抜け/気密性・断熱性/旧車両基地の大屋根や屋上の太陽光発電による電力供給/突き出したバルコニーを用いたの壁面緑化なども取り組まれる。